

もんじゅ燃料輸送 ドキュメント

茨城県東海村にある「日本原子力研究開発機構」の東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所から福島県敦賀市にある高速増殖炉「もんじゅ」へ危険なプルトニウム燃料を積んだトラックが走っています。一九九五年十一月以来、約十三年ぶりに再開された二〇〇八年の輸送では、常磐道から首都高速、東名、名神、北陸道と高速道路を経由し、敦賀インターから一般道を守るルートでした。ところが、二〇一〇年四月二十一日の輸送では、初めて関越、北陸道ルートが使われました。（裏表紙地図参照）「核ジャック」を警戒して、ルートを固定化しないつもりでしょうか？ しかし、頻繁なルート変更は習熟を妨げ、事故の危険性を高めるのではないのでしょうか。

深夜、一般車に囲まれながら走行するトラックは、前後に輸送会社（日立物流）のワゴン車が付き、さらにその前後をパトカーが警備していますが、隊列の途中に一般車が知らずに割り込むこともしばしばです。トラックの横と後ろに取り付けられている一辺二十五センチの標識に書かれている放射能マークと「放射性」の車両に近づかないこと」の文字は近づかないと読むことさえできないからです。

あなたの住んでいる街も核燃料輸送のルートにあたる原子力の現地かもしれません。安全、安心のためにどうすればよいのか？ 一緒に考えてみたいと思います。